

専門研修プログラム名	宇治おうばく病院精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	宇治おうばく病院精神科	
プログラム統括責任者	岡 正悟	

専門研修プログラムの概要	宇治おうばく病院は1957年京都府宇治市の黄檗山万福寺東隣に開設。昭和の高度成長期には精神科・内科の療養病院として700床を擁したが、平成以降は精神科治療薬の進歩、デイケアや訪問看護など社会資源の拡充により精神障害者の地域移行が進み、病院は生活の場から治療の場にノーマライズした。現在精神科395床、内科58床、計453床に縮小し、京都府南部精神科救急と認知症高齢者医療の中核として全ての精神疾患を受け入れる。京都府南部では一般救急と精神科救急の連携体制が確立されており、当院は内科医師とともに身体合併症にも対応する。また認知症疾患医療センターや介護医療院を擁し、認知症初期対応から終末期ケアまで請負う。連携施設は京都府立医科大学附属病院、京都第一赤十字病院精神科の2施設。大学附属病院では摂食障害、児童精神疾患、強迫症、認知症等専門性の高い領域の治療・研究を行っており、それぞれの専門外来もある。京都第一赤十字病院は京都の高度急性期医療の中核であり、精神科は通常の外来診療に加え、自殺企図例等へのコンサルテーション・リエゾンを担うほか、がん終末期の緩和ケアも担う。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目は基幹施設もしくは連携施設の京都府立医科大学附属病院で面接技法や精神療法、基礎的な診断学・治療学を学んだうえで、2～3年目は連携施設又は基幹施設をローテートする。基幹施設では入院診療を中心に、精神科の実臨床を学ぶ。精神科救急病棟では多職種とのカンファレンスを症例ごとに定期的に行う。担当指導医からのスーパーバイズのほか、症例検討会（月2回）では他の指導医や内科医からも助言・指導を受ける。また認知症診療と介護・福祉、重度慢性精神疾患への治療（ECTやクロザリル）・リハビリテーション、地域生活者へのアウトリーチ支援等についても多職種と連携しながら取り組む。大学附属病院では摂食障害、強迫症、児童精神疾患など、より専門性の高い疾患の診療を経験する。また大学附属病院・第一赤十字病院とも総合病院として、コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアなど総合病院精神科医療を経験できる。大学附属病院では専攻医に対し年間を通して各領域のオンラインセミナーを行っており、何年目でも参加が可能。	
	修得すべき知識・技能・態度など	1年目は基幹施設又は大学附属病院で指導医の副主治医となって入院患者を受け持ち、精神保健福祉法、診断と治療計画、薬物療法と精神療法の基本を学ぶ。外来診療では指導医の診察陪席から始め、面接技法、患者や家族との治療関係構築、基本的な診断学、画像検査や心理検査の評価などを学ぶ。1年目の修了までに入院・外来とも単独で診療が可能になることを目指す。2年目は基幹施設又は連携施設で指導医の指導を受けつつ自立して診療にあたり、診断と治療計画の能力をさらに高める。2年目または3年目で第一赤十字病院で研修する期間は外来診療に加えコンサルテーション・リエゾン、緩和ケアで他科との協働を経験する。3年目を基幹施設で研修する場合は、指導医から自立して診療することに加えリハビリテーション、認知症診療、アルコール・薬物使用障害の診療、地域精神保健、産業精神保健、医療観察法関連医療等幅広く学ぶ。

専攻医の到達目標	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	基幹施設では月に2回の症例検討会で困難事例のカンファレンスを行い、複数の指導医の指導・助言を受けるとともに、プレゼンテーション、ディスカッションの技能も習得する。多職種チームによるケースカンファレンスでは、チームマネジメントができることも専攻医の目標とする。
	学問的姿勢	基幹施設もしくは連携施設においてまず症例を経験することを通して医学的な情報収集の方法を身に付け、論文の批判的吟味を学ぶ。その中で、情報発信の意義がある症例については学会発表や論文発表を通して、情報発信の手法を身に付ける。また、リサーチクエスションの立て方と研究計画立案について学び、臨床の中から研究につなげていく姿勢を醸成する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じ1) 患者治療者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの獲得を目指す。加えて精神療法、精神科薬物療法、リエゾン医療といった精神科医特有のコアコンピテンシーの獲得を目指す。また、鑑定入院事例や医療観察通院事例、認知症高齢者のケアと終末期医療、重度精神障害者や知的障害者の医療同意などの場面を通じて精神科に関連する倫理的問題にも対処する機会がしばしばある。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目に基幹病院または京都府立医科大学附属病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識と技能を身につける。2～3年目には基幹病院または京都第一赤十字病院、大学附属病院を6ヵ月～1年間ローテートし、精神科救急、地域医療、認知症高齢者診療、精神科リハビリテーション、総合病院精神科医療などについて幅広く経験し、また、精神保健福祉法や社会資源の活用と多職種連携について知識と技能を身につける。これら3年間のローテート順については、本人の都合や希望に応じて柔軟な対応が可能である。
	研修施設群と研修プログラム	基幹施設の宇治おうばく病院は精神科救急の入院診療を中心に、リハビリテーション、外来診療、在宅支援、就労支援、生活訓練など精神科トータルケアを多職種で実践する。また認知症高齢者について、初期集中支援、診断、外来治療、入院治療、内科医や他医療機関・介護施設との連携、終末期医療まで研修することができる。医療観察法鑑定入院と通院処遇も受け入れており、副主治医となって指導を受けることもできる。重症・難治症例に対するクロザピン治療や修正型電気けいれん療法も常時行っている。連携施設の京都府立医科大学附属病院は手術や複雑な治療を要する身体合併症をもつ精神疾患患者の診療、脳器質性精神疾患の診療、摂食障害や強迫症の入院・外来治療を行っている。大学附属病院及び京都第一赤十字病院精神科ではコンサルテーション・リエゾンや緩和ケアについて、他診療科の医師や看護師と協働しながらの診療を経験できる。

	地域医療について	基幹施設である宇治おうばく病院は京都府南部の精神科救急と認知症高齢者ケアの中核病院であり、第一赤十字病院を含む一般救急病院との連携体制が確立している。顔の見える関係づくりとスキルアップを目的に、救急連携研究会も毎年開催している。また認知症疾患医療センターとして地域の病院や診療所から診断や入院・外来治療の依頼をうけたり、認知症ステージに応じた介護施設への紹介をしたり、初期集中支援、家族教室の依頼なども請け負っている。地域のために活躍できる精神科医をめざすには、患者や家族だけでなく、他の精神科医と、他科の医師と、他の職種と、いずれも良好なコミュニケーションがとれることが重要と考える。
専門研修の評価		週に一回程度、指導医と疑問点や課題について話し合い、専門研修プログラムの進捗状況も確認して評価を行う。また年に3回（4月、7月、12月）プログラム管理委員会で連携施設と情報共有を行う。1年修了時に1年間の研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。研修実績及び評価には研修記録簿／システムを用いる。
修了判定		年次ごとの研修評価を行う。最終学年では3年間の専門研修プログラムで求められている経験症例の確認を行い、関与した指導医全員及び他職種からの評価も考慮して、最終的にはプログラム管理委員会にて終了判定を行う。
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専門研修プログラム研修中医師の、研修進捗状況の確認、指導方法の評価と修正、指導医間での情報共有を行う。
	専攻医の就業環境	各研修施設の労務管理基準に準拠する。新たな就業環境の整備、特別な配慮などが必要な際は、各施設の労務管理者が行うが、プログラム統括責任者の承認を要する。
	専門研修プログラムの改善	基幹施設の統括責任者と連携施設の指導責任者によるプログラム管理委員会にて定期的にプログラムの内容について評価し、必要に応じ修正を加える。
	専攻医の採用と修了	基幹施設の統括責任者らが本人の面談を行い、必要に応じプログラム管理委員会のメンバーとも協議して採否を決める。終了についてもプログラム管理委員会にて判定する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特別な事情がある場合、研修の中止・中断などを本人と統括責任者、担当指導医の三者で協議し決定する。プログラム移動、プログラム外研修についても三者で協議し判断する。3つの研修施設それぞれの研修期間は原則12か月ずつだが、事情による3ヶ月程度の増減も三者で協議のうえ決定する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	サイトビジットならびに研修内容に関する監査・調査・評価をいつでも受け入れる。

専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	岡正悟（宇治おうばく病院院長）、赤澤祐貴（宇治おうばく病院副院長）、沢井真樹（宇治おうばく病院部長）、大月祥宏（宇治おうばく病院医長）、綾仁信貴（京都府立医科大学附属病院精神神経科診療科長）、名越泰秀（京都第一赤十字病院精神科部長）、藤澤なすか（京都第一赤十字病院精神科医長）
Subspecialty領域との連続性	本研修プログラムにて精神科領域専門医としての知識や技能を十分に習得することにより、高度の専門性の獲得を目指すことができる。